

生き方リサーチ

豊かだけど不安な中で――

■4月はスタートの月

4月は進学、進級、就職、転職、そこそこで新生活が開花する。生き方の節目の月だ。厄介な花粉の影響もあるが、春の訪れは、一年の中で最もムズムズ、ワクワク、ドキドキしてくる。

前号では、私たちHRIの調査結果から「日本人の生き方4タイプ」を紹介させていただいた。そこで、生き方の節目のシーズンに合わせて本号では「生き方選びの自由と不安」について述べてみたい。

■夢と希望？不安とリスク？

一昔前までならば、新生活のスタートは、「夢+希望」V「不安+リスク」というポジティブな不等式で表せた。しかし今、この不等式の逆転現象が広がり始めている。新しい一歩を踏み出す直前には、どちらに向けて踏み出すかの決心が必要だ。言い方を換えれば、一つを選ぶために、他の多数の可能性を捨てるということになる。

しかし、80年代くらいまでは、いくら自分の生き方を自ら選ぶと言っても、じつは世間が決めた生き方に従っていたのが実状だろう。進学、就職など、社会の慣習や序列構造の中で、その時点の当人に最もふさわしい決定が、世間から下されていたのだ。成長社会では、そのような生き方

をすんなりと受け入れることが、当人やその家族の幸せのために、最も効率良い選択だった。時代の勢いが、生き方の選択の迷いを吹き飛ばすほど強く、信頼できたからだ。みんなと同じモノサシに基づいて生き方を決めておけば、「夢+希望」V「不安+リスク」だった。

しかし90年代以降、従来の価値観があてにならなくなり、与えられた単線型のレールの上を生きることの安心よりも不自由さが気になり始めた。そして、「生き方の選択肢が多い社会こそ、豊かな社会だ」という気運が広がった。

自分の生き方は、自分で選んで、自分で決めて、自分で責任を負うという時代の幕開けだ。しかし、時代の勢いが失速した中では、「自分探し」の失敗は許されなれないという強迫感も同時に強まった。「夢+希望」V「不安+リスク」への逆転である。

■迷いの中のコア世代たち

このような価値観の過渡期を、どんなライフステージで経験したかで、現在の生き方に差が現れ始めている。

青年期に波をかぶったのが、70～80年代初め生まれの、いわゆる「ロスト・ジェネレーション」だ。彼らには、「自分らしさ」を活かせる、「かけがえない」適職を選ばなくてはならないという強迫感が強い。それゆえに、青い鳥を探し続ける「フリーター」や、青い鳥探しを早々にあきらめてしまった「ニート」が、この年代から多数生まれた。「新

人類」世代は、バブル経済の勢いによって社会に出たものの、働き盛りの時期にバブル崩壊を迎えてしまう。さらに、一個の自立「や」男女雇用均等」という建前の価値観と、旧態依然たる会社社会の価値観の間で苦しんだ者も多い。転職者の急増、晩婚化の急進など「自己実現」の強迫に駆られ始めるのも、このあたりからだ。

一方、家庭での子育てでは「個性」を育てることに価値が置かれ、そのための早期教育やマニユアル子育て、将来の選択自由度を確保するための一流大学進学を目指した小・中学校からの受験ブームが、公立学校教育の質の低下とあいまって過熱化する。いつの間にか、子育ての「個性志向」が「ブランド志向」に変質してしまったのは、リスク覚悟の生き方より、安心ブランドの個性ラベル獲得をと

いう親心なのだろうか。この

ような世情を反映してか、相次ぐ子育て雑誌の創刊が賑やかだ。誌面を見ると、従来のような乳幼児の子育てマニユアルではなく、小中学生の子育てマニユアル記事が多いのに驚かされる。さらに、それが日経やアエラ、プレジデントなどビジネス情報誌から出てきているのも興味深い。

■ふわっとスマートな高校生

より若い世代ではどうだろう。先月、日本青少年研究所が発表した調査報告「高校生の友人関係と生活意識」の結果は興味深いものだった。この調査は、日本、アメリカ、中国、韓国の国際比較をしている。

その中から、高校生の関心事に関する分析結果を紹介したい。19項目について関心の強さを質問した結果から因子分析を行い、五つの因子を抽出したものだ。

電話や携帯メール「容姿」などで、私は「ふわっとスマート型」と名付けた。第二因子は「コンピュータやインターネット」「ゲーム」などで「サイバー・オタク型」、第三因子は「勉強や成績」「将来の進路」など「コッソツ・マイビジョン型」、第四因子は「地域社会」「国家」など「コミュニティ貢献型」、第五因子は「レジャー」「クラブ活動」など「自分流エンジョイ型」だ。これらの因子得点平均値を国別に比較したグラフが図1である。

この結果から、日本の高校生の特徴は、「ふわっとスマート」志向が強く、「コッソツ・マイビジョン」志向が弱いのが明らかだ。さらに、「自分流エンジョイ」で満足できるといふ傾向も目立つ。この他の結果からも、日本の高校生の生活意識には、不安も希薄だが、将来への期待や希望が見えたらぬ。

■レッツ・スタート！

フランスで、26歳未満を雇えば2年間は理由無く解雇できるといふ新たな雇用制度(CPE)に対して、若者たちの怒りが爆発し、社会を巻き込み全国規模のデモとなっている。デモは、民主主義社会の正当で前向きな怒りの表現だ。デモの先頭は高校生たちだといふ。

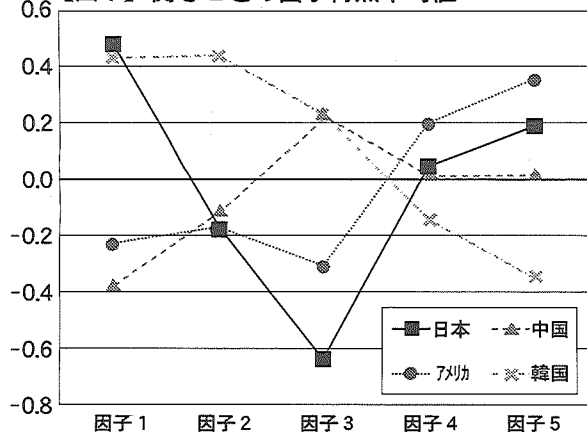
豊かな選択肢、自己決定と自己責任、これが成熟社会の豊かさならば、万人に通じる唯一の生き方の正解など無さそうだが、ならば、後ろ向きではなく、前向きにスタートを切る元気な社会を築きたい。そのために、老いも若きもそれぞれのニュー・スタートを始めよう。(オムロン・ヒューマンルネッサンス研究所 中間真一)

前向きに選んだ、「自己決定」



子育てマニユアルの記事が雑誌にはあふれる

【図1】関心ごとの因子得点平均値



(日本青少年研究所「高校生の友人関係と生活意識」)